

## こんなものでたよ

最近の調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。

今回は伊勢原市西富岡・向畑遺跡から出土した古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺物です。



### 温石（おんじゃく）

よく磨かれた石のかげら。一边は4cmほどです。平安時代（9世紀）の竪穴住居跡から出土しました。これは温石（おんじゃく）といって、現在のカイロのように使用されました。これはカドの部分のみの出土ですが、本来は四角い板の形をしていたものと思われまます。熱して布で包んだり、四角い箱に入れて身体を温めたようです。

※参考資料

右の写真は、鎌倉佐助ヶ谷遺跡で出土した鎌倉時代の温石です。（縦15cm、横11.5cm）板状で、木の箱に入れて使用しました。



### 金銅製品（こんどうせいひん）

古墳時代～奈良時代に属する竪穴住居の床から出土しました。長さ4cm、幅2.5cmあり、8枚がまとめられていました。銅で作られた金属板で、表面に金がメッキしてあります。

飾り金具（かざりかなぐ）と思われるのですが、何に使われたものかはわかっていません。写真上にあたる小さな穴には、絹の紐（ひも）が見つかっています。

## 行事案内

### かながわ考古学財団平成21年度地域速報展

#### 「相模国府の発掘調査」

日時：12月12日(土)～1月24日(日) 09:00～17:00（入館は16:30まで）  
場所：平塚市博物館（JR平塚駅から徒歩15分）  
入場料：無料  
共催：平塚市博物館

### 入門考古学講座第5回『ようこそ考古学』

#### 平成21年度 第5回テーマ 「古代相模国府の発掘調査」

日時：12月20日(日) 14:00～16:30  
場所：平塚市博物館（JR平塚駅から徒歩15分）  
講師：柏木善治（かながわ考古学財団）  
定員：80名（応募者が定員を超えた場合は先着順になります）  
費用：無料  
申し込み方法：往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へお申し込み下さい。（締め切り12月15日（火）必着）

発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://www.kaf.or.jp>) からダウンロードできます。

お申し込み  
お問い合わせ

(財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室  
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp  
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

# 考古学財団発掘帖

2009  
3号

かながわ考古学財団情報誌 通巻10号

平成21年10月30日発行 年4回発行



## みどり色の焼き物—緑釉陶器(りょくゆうとうき)—

茅ヶ崎市・寒川町 小出川河川改修関連遺跡群（こいでがわかせんかいしゅうかんれんいせきぐん）出土

平安時代の初め頃（9世紀）になると、日本でも釉薬（うわぐすり）をかけた陶器が焼かれるようになります。写真の緑釉陶器は、釉薬として鉛ガラスを使ったもので、現在の愛知県や京都府で焼かれていました。

はるばる小出川河川改修関連遺跡群（茅ヶ崎市下寺尾・寒川町大曲他）まで運ばれてきたこれらの「うつわ」を使った人々はどのような立場の人だったのでしょうか。

### 目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション  
相模原市：小保戸遺跡  
小田原市：小田原城八幡山古曲輪群跡
- こんなもの出たよ 温石（おんじゃく）他
- 行事案内 平成21年度成果発表会・成果展示会  
第四回ようこそ考古学



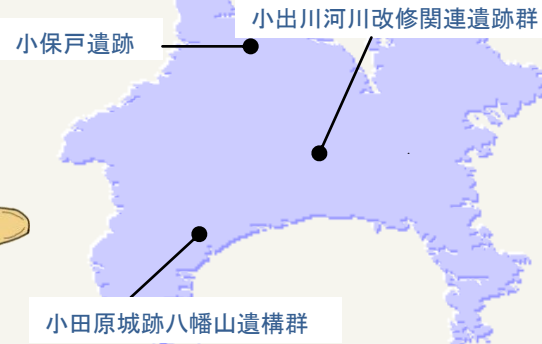
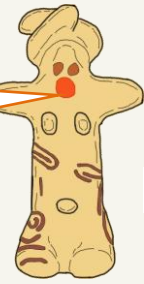
(財) かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1  
考古学財団 ☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>



# 発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ほくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



## 小保戸遺跡 (こほといせき)

(所在地)	相模原市	(時代)	旧石器時代・縄文時代、奈良・平安時代、中・近世	(調査期間)	2007年2月～
-------	------	------	-------------------------	--------	----------

小保戸遺跡は相模原市城山町小倉に所在しています。一般国道 468 号(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う事前の発掘調査として、平成 19 年 2 月より断続的に調査を実施しています。これまでの調査で、中・近世、古代、縄文、旧石器時代の各時代の遺構・遺物が発見されています。

ここでは、特異な出土状況を呈して検出された旧石器時代の礫群についてご紹介します。

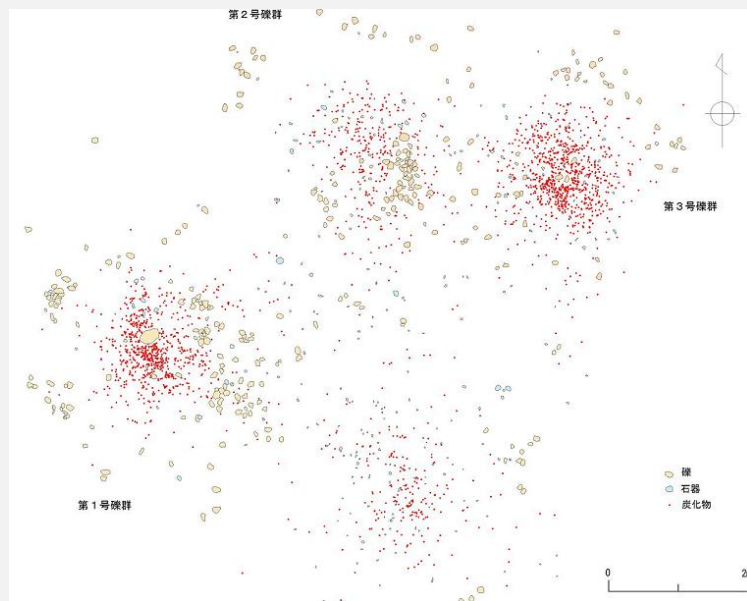
礫群とは、直径数十cm～2m程度の範囲内から加熱された川原石が集中して出土するもので、旧石器時代の人々の調理施設ではないかと考えられている遺構です。

しかし、小保戸遺跡から発見された約 23,000 年前の礫群は、焼けた川原石が 2.5～3.5m程の規模で環状に分布しており、その内側となる川原石が無い範囲から、石器や微細な炭化物が出土しています。これは、環状にめぐる川原石の内側で、道具(石器)の製作・使用や火の利用が行われていたものと想定されます。

このため、小保戸遺跡で発見された礫群は、テントの様な簡易な住居状遺構である可能性が高い貴重な発見例と考えられます。



環状を呈する礫群 (第 1 号礫群)



環状を呈する礫群の平面図 (赤い点は炭化物)

## 小田原城跡八幡山遺構群 (おだわらしょうせきはちまんやまいこうぐん)

(所在地)	小田原市	(時代)	縄文時代、弥生～古墳時代、中・近世、近代	(調査期間)	2009年6月～2008年7月
-------	------	------	----------------------	--------	-----------------

小田原城跡八幡山遺構群は小田原市城山に所在し、小田原城の中でも「八幡山古郭」と呼ばれている八幡山丘陵の縁辺部に位置しています。調査は県立小田原高等学校の整備工事に伴う確認調査として前年度からの継続調査を行いました。

昨年度調査地であった県立小田原高等学校旧校舎跡地(「西曲輪」)の中でも旧プール跡と三味線堀周辺において調査を行い、その結果、昨年度見つかった三味線堀と本曲輪北堀の延長部が新たに確認されました。中でも本曲輪北堀は、前回確認できなかった堀東肩を検出し、幅 27～28m と巨大な堀であったことが分かりました。また、堀の埋め土からは古墳時代前期(4世紀後半頃)の壺形埴輪が出土し、これは小田原市内初の出土となりました。このことから調査地近辺に前期古墳があった可能性が出てきています。



出土した壺形埴輪(古墳時代前期)



調査区の後ろの森が本曲輪の高台



明治時代初め頃の八幡山古曲輪周辺「フランス式彩色図」日本地図センター